ノーム通信１４８　2008－１０

〒130　0026　東京都墨田区両国 4-30-4-1109

今月もすぐにバングラへ行くから気もせく。行ってみないと何をするのかわからないものだから、準備もままならない。まあ、行動の基本パターンは、大きな移動のときは、荷物を車の後ろにほうり込んで、貴重品と、GPSくらい持って、あとは燃料補給や、食事、橋の通行税の支払いくらいだから、小銭と、計算機とメモは手放せない。

村では、車や、リキシャから降りると同時に人に取り巻かれて現場へ行き、観察、記録、話し合いへと突入し、場合によったら地図作りをはじめ、そのまま、村の人たちとの集会へと突き進んでいく場合もある。移動と作業が頻繁だから、どうしても必要なものは身につけたままにしておきたい。つまり、カメラ、GPS、携帯、時計、方位磁石、電子距離計、小さな懐中電灯、ナイフ、電子辞書、各種予備電池、単眼鏡、ノート、筆記用具、パスポート、お金、ウイスキーグラス、てぬぐい、カットバン。別に、すぐに使えるように手元にあったほうがいいのは、パソコンおよびその電源やコード類、メモリー類、水。それらをほとんど腰周りにつけておかないと落ち着かない。場合によったらバイクでの移動もあるものだから、まあ仕方がない。もっとも一緒に動いている大兄はみんな首からぶら下げてニコニコしているが、まあ、それぞれの生きかたの方向というものはあるものだ。

いつも思うのだが、道具が多いというのは、不安の表れで、自信がないから用意するものが増えてしまう。一度見たらもう見る機会がないかもしれないし、会うことのない人もたくさんいるものだ。個人なら、それなりに達観して、そういうものであると納得してしまえばいいのだが、やらなければいけないことがあるというのはどうもいけない。とまあ、ぼやきつつ、現地へ補給する御禁制のアルコール類をどうやって大量にスーツケースにつめこむかなんてやっている。

しばらくは落ち着きなく、そんなことを続けているが、本当にどうやって生きていこうとしているのか、本人にもわからないものだから、これが一番気持ちが落ち着かない原因なのだろうが、仕方がないのだ。人間って、こんなに自由に生きていていいものだろうか。もっとまじめにこつこつと働いて死んでいかなければいけないものなんではなかろうか。そう思う時もある。

そんな中、このところ身近で、立て続けに病院のお世話になる方々が増えて、これまた落ち着かない。30年来一緒に遊んできた人が、病院のベッドで元気がないのは、長い間の天敵としては、こっちまで気持ちが萎えてしまう。考えてみたら、私も含んで、生身のニンゲンとしたら、消費期限はそう長い時間はないのだろーなということは見えてくるもので、だからこそ、あとわずか数年から数十年の時間を、どういう姿勢ですごすのかということが大切なのだろーな。まあ、どうやってもじきに人々の記憶から霞んで消えていき、それでいいのだが、その人々も、次々に代わっていくので、確かなものなんて、今の自分の生きる姿勢くらいしかないのかもしれない。同じ時の舞台にたまたま上がれた人たちの繋がりの中で、しっかりした姿勢で生きていくだけで結構骨で、それで十分水際立っているのではないだろうか。そんなことを考えていました。

http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1
ＴＥＬ/ＦＡＸ　03－5600－0195　高 村　哲　GnomesJpn@aol.com